

真心ある政治「こころのよりどころ通信」

大野市議会議員 林よりかず活動報告



大野市議会議員の林順和です。政治は常に国民、市民のものでなければなりません。私は日ごろから現場を大切に、話を聞いて「誇れるまち大野」実現のため、市民・事業者と行政との橋渡しを心掛けています。

前号(第16号)以降、6月議会後に参議院議員選挙があり一定の政治活動が制限されていきました。その後、8月に臨時議会、先月は9月議会が開かれました。市民を不安にさせない行政経営手法に改善するよう求め、議論を深めました。引き続きのご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

林 順和 Hayashi Yorikazu 昭和52年(1977)生まれ 48歳

中央大学卒、大野市議会議員2期目

デジタル地域商品券で消費拡大(10月下旬発売開始)

8月4日に大野市議会臨時会が招集され、36,467千円を増額する一般会計補正予算など3議案を可決しました。補正予算では、紅葉シーズンにおける観光誘客と市内事業者支援として、プレミアム付きデジタル地域商品券の発行経費(26,510千円)が盛り込まれました。

10月28日から発売開始、令和8年2月8日までの利用となります。

⇒(市長)紅葉シーズンを見据えた誘客促進と市内での消費喚起を目的としたプレミアム付きデジタル地域商品券の発行を計上しています。

○事業名：秋の大野においてよ事業

○事業概要：2,000円で500円分のプレミアム付きデジタル地域商品券を合計4万口販売。市民も含めて1人5口まで購入可能

○聞き取り結果(9月末時点の状況)

(質問)どうやって購入するの?市民等への周知は?

→市内のpaypay加盟店で利用できる商品券は、スマートフォンなどを活用して購入手続きを行うこととなる。

→広報おおの10月号9ページで掲載しているほか、イベント会場での周知も含めて丁寧に周知を図る。

○問い合わせ：

市役所1階産業政策課
(0779-64-4816)

<https://hayashi-yorikazu.jp/>

「こころのよりどころ通信」バックナンバーや最新の市政情報は、右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。



税金の使われ方や市債、基金残高などを審査

10月6日から大野市議会決算特別委員会が始まりました。令和6年度中に使われた税金の費用対効果や、市債(借金)、基金(貯金)残高の状況などを審査。審査を通じて、今後の行政運営や令和8年度当初予算編成への反映など、成果が見えるよう議論してまいります。

一般会計	歳入(収入)総額	248億3,501万5千円
	歳出(支出)総額	239億2,888万1千円

大野市決算内訳、各種数値の状況(一般会計)

★歳出全体に対する義務的経費は84億8,524万3千円

人件費は34億8,420万5千円、低所得者支援などの扶助費は36億9,802万8千円、市債の元金と利子の支払いに充てる公債費は13億301万円でした。

一人あたりの支出額は人件費が11万7,837円、扶助費が12万5,069円、公債費が4万4,068円でした。(令和7年4月1日現在の人口2万9,568人で計算)

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は94.0%、標準的な行政需要に自主財源でどの程度対応できたかを示す財政力指数(3カ年平均)は0.423でした。

市債、基金現在高の状況(一般会計) ※カッコ内は前年度との比較

【市債現在高】141億8,682万5千円(19億7,200万9千円の増)

臨時財政対策債52億3,856万円、過疎対策事業債47億9,884万5千円、旧合併特例事業債19億7,779万3千円が現在高の上位3事業となっています。

【基金現在高】74億2,288万9千円(4億2,597万6千円の増)

財政調整基金21億9,807万7千円、地域振興基金18億1,732万7千円、減債基金11億1,592万7千円が現在高の上位3基金となっています。



忠魂碑

本年は戦後80年。全国戦没者追悼式において天皇陛下は「戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います」とお言葉を述べられました。

また、旧西谷村を襲った奥越豪雨(四〇・九風水害)から60年が経過。全国で災害が激甚化する中、改めて真名川ダムなど防災力の維持強化と山林の保水力維持に向けた対策が求められています。

ふるさとを大切に守ってこられた先人への感謝を忘れずに、次の世代に受け継いでいきたいと思っています。

編集後記

発行元 林よりかず後援会事務所 【電話・FAX】0779-65-0276 大野市春日二丁目5-13

大野市議会・本会議の様子(ライブ中継)や議事録は大野市ホームページ「大野市議会」のページで確認することができます。右記のQRコードを読み取ると、簡単にアクセスすることができます。ぜひ、ご確認ください。



3つの温泉・温浴施設の方向性と考え方は (9月議会一般質問)

林の視点

あくまで現時点の案であることを確認した上で、まずは3つの施設を押し並べて管理運営手法や財政見通しを検討し、方向性を決めていくよう求めました。

健康保養施設・あっ宝んとは「現状維持」

⇒(健康長寿課長)令和6年度の入館者数15万7,561人と、コロナ禍前に比べ増加傾向であり「現状維持」としたい。

【施設概要等】

- ・平成12年(2000年)に設置して25年が経過(耐用年数50年)
- ・管理運営は指定管理者制度(民間事業者による運営)を採用
- ・プール施設は令和8年4月から利用時間が「午後7時まで」となる(温浴施設はこれまで同様、午後11時まで)

ファミリーリゾート休養施設・うらら館は「利活用促進」

⇒(観光交流課長)利用者数2万2,091人でピーク時の約半数であり、年々減少傾向である。市において維持管理を行い、「利活用促進」を図りたい。

【施設概要等】

- ・平成10年(1998年)に設置して26年が経過(耐用年数38年)
- ・管理運営は市直営(民間事業者への管理委託)で実施
- ・木質バイオマスボイラを導入(令和5年度)

九頭竜保養の里・九頭竜温泉平成の湯は「譲渡」

⇒(観光交流課長)温泉という地域資源を生かし、3万4,064人とコロナ禍前の状況まで回復したが、収支は赤字。将来的なフレアール和泉と平成の湯の「譲渡」を検討したい。

【施設概要等】

- ・平成26年(2014年)に設置して10年が経過(耐用年数38年)
- ・管理運営は指定管理者制度(民間事業者による運営)を採用
- ・本年10月から、定休日が増加(火曜日に加えて水曜日も)され、利用開始時間が平日は「午後2時から」となる。12月からは利用時間が「午後8時まで」となる。



林の視点

「譲渡」方針案に対し、次の点を指摘しました。

- ・自噴源泉・水源という本市ならではの地域資源を有している
- ・耐用年数が相当残っており、県補助金の返還も想定される
- ・昨年12月の個別施設計画策定時は「現状維持」としていたが急に変更となった理由は何か

文化会館は必要な施設ではなかったのか (6月議会一般質問)

現在の文化会館に対する方向性は「令和8年5月末をもって閉館する」。令和3年度に新設された地域づくり部の基本目標は「みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち」であり、所管を移した目的・必要性を確認しました。

⇒(市長)文化会館閉館後は、市内既存施設を有効活用し、必要な補修や備品の導入を行い、文化活動の発表、鑑賞の場としてご利用いただくことで、市民の文化振興に努めていく。



林の視点

来年6月以降「使用許可を出さない」とする市長の方針が、文化会館を活用する高校生などにどう伝わっているか、将来大野に帰ろうと思ってもらえるか、しっかり考えてほしいと求めました。

普通財産の活用方針や窓ロ一本化は (6月議会一般質問)

⇒(行政経営部長)「旧宝慶寺いこいの森」は施設の解体を、「旧和泉グラウンド」は約1万3,000平方メートルあり、民間への売却を検討する。

⇒(観光交流課長)「九頭竜保養の里」の旧コテージは民間譲渡も目指し、個人も対象から外すことはなく、広く対応を考えていく。

林の視点

特定の行政目的を持たない公有財産である普通財産が増えています。令和6年度末時点で23施設、延床面積は約2万平方メートルあるとのことで、民間への貸付や売却をさらに促進するため、企業誘致と財産活用を一体的に進める組織の設置を求めました。

関心を持って「自分事」として…市民意見を募集



越前大野城

高齢化が進展しつつ人口が減少していく中、市では今後、公共施設再編の「施設方向性」に関するパブリックコメント(市民意見の募集)を行う予定としています。

将来を見据えた施設のあり方についても関心を持っていきましょう。



うらら館